

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	村山 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書教諭課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

司書教諭資格取得のための必修科目であり、学校図書館経営の基本的事項を学ぶ。

科目の概要

この科目では、学校図書館の理念や現在の施策を知り、目指す学校図書館像や学校図書館の先進事例について学ぶ。さらに、学校図書館の運営計画や活用計画、教職員全体での学校図書館組織作り、学校司書との連携、環境づくり、学校図書館を活用した教科の学習活動や読書活動の事例など、学校図書館を運営するための具体的な内容について学ぶ。講義形式だけでなくスキルアップのための演習やグループ活動を多く取り入れる。

授業の方法 (ALを含む)

学校図書館の理念や現在の施策を知り、目指す学校図書館像や学校図書館の先進事例について学ぶ。【グループワーク】【討議・討論】

学校図書館の運営計画や活用計画、教職員全体での学校図書館組織作り、学校司書との連携、環境づくり、学校図書館を活用した教科の学習活動や読書活動の事例など、学校図書館を運営するための具体的な内容について学ぶ。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- ・学校図書館法や学校図書館に関わる法的な根拠を知り、学校図書館の果たす役割を説明できる。
- ・学校図書館の全般的な事項に関する基本的な事項を理解し説明できる。
- ・司書教諭は学校内でどう活動すべきか理解し、学校司書や他の教職員との連携について考え提案することができる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	授業方針 学校図書館経営の理念と教育的意義 学校図書館の歴史
2	教育法制・行政と学校図書館 学校図書館の現状と課題
3	学校図書館の施設・設備
4	学校図書館のメディア 1 情報資源の種類
5	学校図書館のメディア 2 著作権
6	学校図書館の経営 運営組織と運営計画

7	学校図書館の経営	司書教諭と学校司書の仕事と役割
8	学校図書館の経営	学校図書館機能を高めるために
9	学校図書館の経営	オリエンテーションクイズ
10	学校図書館の活動1	教育過程の展開に寄与できる学校図書館づくり
11	学校図書館の活動2	めざす学校図書館像と先進的な学校図書館を知る 調査
12	学校図書館の活動3	めざす学校図書館像と先進的な学校図書館を知る まとめ
13	学校図書館の活動4	めざす学校図書館像と先進的な学校図書館を知る 発表・意見交換
14	図書館協力とネットワーク	学校図書館に関する研修・研究と展望
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義に関する資料を指示するので調べて読んでおく。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義の中で紹介したホームページや図書等を調べたり、指示した発展的な課題のレポートを次週提出する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

全体で平常点40% レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

・学校図書館法や学校図書館に関わる法的な根拠を知り、学校図書館の果たす役割を説明できる。平常点10% レポート20%

・学校図書館の全般的な事項に関する基本的な事項を理解し説明できる。平常点10% レポート20%

・司書教諭は学校内でどう活動すべきか理解し、学校司書や他の教職員との連携について考え提案することができる。平常点20% レポート20%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて資料を配布する

【推薦書】『改訂新版 学校経営と学校図書館』放送大学教材 野口武悟 前田稔

『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 改訂版』公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』堀川照代 公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書教諭課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学校図書館司書教諭に関する科目 (5科目) の一つである。

科目の概要

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」や「インターネット等の電子資料」の種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要性を理解する。

授業の方法

本科目では、講義による解説を中心とした授業を進めるが、司書教諭として実務能力が持てるように、学校図書館で利用されている図書館システムや、図書選書・発注システムを利用した実習のほか、図書館利用案内 (情報ナビゲータ) の作成などパソコンを活用し学修していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているか、学校司書を特別講師として招き、運用の具体例を含めて説明する。

到達目標

1. 学校図書館に必要なメディアの特性を理解し、必要な資料を選択することの必要性を理解する。
2. 学校図書館で資料をわかりやすく利用させるための組織化 (分類・目録) することの基礎を学び理解する。
3. 資料の配架やレイアウトを知り、使いやすい学校図書館運用の必要性を理解する。

内容

1	授業の進め方と目標 (ガイダンス)
2	学校図書館を取り巻く環境と現状
3	学校図書館の機能と運用
4	学校図書館メディアの種類と配架 (事例)
5	学校図書館メディアの収集方針と選書
6	学校図書館における図書館案内 (作成)
7	学校図書館メディアの組織化 (分類)
8	学校図書館メディアの組織化 (目録)
9	学校図書館メディアの組織化 (学校図書館システム コンピュータ目録: 演習)
10	学校図書館メディアの組織化 (学校図書館システム: 演習)

11	学校図書館メディアにおけるホームページの活用（事例）
12	学校図書館メディアの授業支援（事例）
13	学校図書館メディアのネットワーク【学校図書館・公共図書館】（事例）
14	学校図書館メディアにおける著作権法
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

学校図書館が実際にどのように運用されているのか、実習やボランティア等で行く学校図書館を常に興味を持って見学すること。

【事後学修】

授業の内容を確認して、実際に実習やボランティアで行く学校図書館の運用・利用をみる。また、本学の大学図書館をはじめとして、近隣の公共図書館を利用・見学して、各図書館で学校図書館と連携したサービスをおこなっているかなど、図書館業務・サービスを把握することで理解を深める。

評価方法および評価の基準

評価の前提として2/3以上の出席をすること（やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること）。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題（35点）、演習に対する課題やレポートによる評価（35点）、試験（30点）の結果で総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】 志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009 ほか、授業でその都度挙げて説明していく。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書教諭課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校教員、教育委員会指導主事、教科調査官 (文部科学省) を経験した教員が、読書指導、学校図書館等の活用について実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

司書教諭資格を取得するための必修科目である。児童生徒の読書活動の動向を踏まえ、司書教諭が果たすべき役割について多面的に学ぶ。

科目の概要

司書教諭は、児童生徒の日常的な読書活動の支援と、新しいメディアの活用についての支援とともに、学校が組織的に読書指導に取り組むためのコーディネーターとしての役割も期待されている。こうした資質を身に付けることを目標に、読書の意義、発達段階に応じた読書指導、主体的な読み手を育てる読書指導、各教科等における読書指導等について具体的に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義に加え、作業や体験、討論などを取り入れる。単に理論を学ぶだけでなく、学生自身が自らの本との関わり方を考えることを通して、読書と情報活用の意義や方法を、実感をもって学習できるようにする。 【ディスカッション】 【実技】 【レポート】

到達目標

1. 読書の意義、発達段階に応じた読書指導、主体的な読み手を育てる読書指導、各教科等における読書指導等についての知識を身に付け、説明することができる。(平常点20%、レポート15%)
2. 学修したことに基づき、学校全体の読書指導の計画を工夫して立案することができる。(平常点20%、レポート15%)
3. 自らの読書生活を振り返り、進んで読書することができる。(平常点20%、レポート10%)

内容

1	オリエンテーション, 「読書ノート」の記入について
2	子供の読書の現状と課題, 国や地方自治体の取り組み
3	読書環境の整備 【実技】
4	読書資料の種類と分類, 十文字学園女子大学図書館で実地に学ぶ 【レポート】

5	発達段階に応じた読書指導（乳幼児） 【ディスカッション】
6	発達段階に応じた読書指導（小学校低学年），絵本の読み聞かせの基本
7	絵本の読み聞かせの実際 【実技】
8	発達段階に応じた読書指導（小学校中学年），本を紹介する技術 【実技】
9	国語科における読書指導
10	発達段階に応じた読書指導（小学校高学年以上），本を紹介する技術 【実技】
11	ブックトーク，ビブリオバトルの実際 【実技】
12	読書生活のデザイン，「読書ノート」の交流 【ディスカッション】
13	図書館を使った調べ学習の進め方
14	読書活動を推進する多様な取り組み，読書ビンゴを作る 【実技】
15	まとめ～これからの司書教諭の役割～ 【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスや予告に基づいて、事前の学修を進める[各授業に対して45分]。

【事後学修】学修したことを、実際の読書生活に結び付けて実践する[各授業に対して45分]。

評価方法および評価の基準

小レポートや作業の成果物及び演習や討論等への参加状況60%、最終的な論述レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。小レポートに合わせて質疑を受け付け、次回の授業等でフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』

【推薦書】【参考図書】授業の中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書教諭課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、司書教諭資格を得るために必要な科目である。教職課程の履修が前提となる。

科目の概要

学校図書館の情報化の流れを概観し、メディア専門職としての司書教諭のあり方を理解する。次に、情報メディアの特性や活用方法を、実習も交えて体得する。また、情報活用能力を育成するために必要となるインターネットによる情報活用方法について学習する。同時に、著作権法や学校図書館に関わるモラル指導のあり方について解説する。

授業の方法 (ALを含む)

メディア専門職を目指す観点から、毎回の授業でICTを用いた取り組みを行う。内容は、情報検索、Webページ作成、データベース作成になる。【ICT】

到達目標

- ・学習を支援する学習センターの機能や児童生徒の情報リテラシーの育成を説明することができる
- ・情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に関する基本操作ができる
- ・情報活用能力を育成できる司書教諭として、児童生徒の関心・意欲を喚起する授業を行うことができる

ディプロマポリシーとの関連

- ・資料を活用する力
- ・ICTスキル・情報リテラシー

内容

講義による解説とパソコンでの操作演習を行う。

1	学校図書館の情報化の施策の流れ
2	メディア専門職としての司書教諭
3	高度情報通信社会と学校図書館
4	情報メディアの発達
5	情報メディアの特性と選択
6	視聴覚メディアの活用
7	教育用コンテンツの活用

8	データベースと情報検索
9	インターネットによる情報活用
10	インターネットによる情報発信
11	学校における情報共有
12	インターネット利用の光と影
13	著作権とメディア
14	演習・実習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の該当箇所に目を通し、キーワードを調査すること。(60分)

【事後学修】授業で課す課題について、期限までに実施すること。(60分)

第8回、第10回については、ICT操作演習を課す(120分)

評価方法および評価の基準

- ・学習を支援する学習センターの機能や児童生徒の情報リテラシーの育成を説明することができる
レポート課題 2種類(40%)
- ・情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に関する基本操作ができる
ICT操作演習課題 2課題(40%)
- ・情報活用能力を育成できる司書教諭として、児童生徒の関心・意欲を喚起する授業を行うことができる
レポート課題と発表 1課題(20%)

上記を総合して、60%以上で合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】井口磯夫編著 『情報メディアの活用』 樹村房

Web教材(LiveCampusより提供)

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳

『インフォメーション・パワーが教育を変える』 高陵社

堀田龍也著 『メディアとのつきあい方学習』 ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編 『情報倫理学』 ナカニシヤ出版

田屋裕之著 『電子メディアと図書館』 勁草書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など